2026_1108「ビルのすき間の筑波山」日々の理科 4473 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

東京都北区田端にある建物の７階から、北東方向を眺めていると、ビルのすき間に特徴的な山の姿が見えました。茨城県にある筑波山です。東京の市街地からは遠く離れていますが、関東平野の北東部に独立してそびえているため、空気の澄んだ日には、その山容をはっきりと望むことができます。周囲に高い山が少ないことも、筑波山が遠方からよく目立つ理由の一つです。

筑波山の最大の特徴は、二つの峰が並ぶ「双耳峰」であることです。向かって左側が標高８７１ｍの男体山、右側が標高８７７ｍの女体山です。この独特の山容は、遠くからでも見誤ることがありません。富士山と並んで古くから親しまれてきた名山ですが、その成り立ちは富士山とはまったく異なります。筑波山は火山ではなく、地下深くでマグマがゆっくり冷えて固まった深成岩などからできている山なのです。

筑波山を構成する岩石には、斑れい岩や花こう岩などがあります。特に山頂付近には硬い斑れい岩が分布しています。これらの岩石が地下で形成された後、長い年月の間に地殻の隆起や周囲の岩石の風化・侵食が進み、現在のような山容がつくられたと考えられています。二つの峰も、岩石の性質や侵食の進み方の違いなどによって残された地形です。

高層ビルや送電鉄塔が林立する東京の風景の向こうに、気の遠くなるような地質時代を経て形成された山が見えています。何気ない都市の眺望にも、大地の歴史を読み解く手がかりが隠されているのです。

（2026 年 11 月上旬／東京都北区田端）

